

◆ 特別掲載 ◆

「日本監査役協会との意見交換会」概要

日本証券アナリスト協会
企業会計部

目 次

1. 有価証券報告書「監査の状況」の記載
2. 有価証券報告書の株主総会前開示
3. 監査役等と投資家のエンゲージメント

日本証券アナリスト協会は、2026年3月2日、日本監査役協会の役員との意見交換会を開催した。

本意見交換会は、監査役等が果たしている役割や実務実態について機関投資家等の理解促進を図り、企業と投資家とのより良い対話のあり方を検討すべく、年1回程度開催しているものである（注1）。今回は、日本監査役協会6名と当協会8名で意見交換を行った。

意見交換会では、1. 有価証券報告書「監査の状況」の記載、2. 有価証券報告書の株主総会前開示、3. 監査役等と投資家のエンゲージメント、の3つのテーマについて活発な意見交換が行われた。以下、概要を紹介する。

1. 有価証券報告書「監査の状況」の記載

日本監査役協会出席者から、自社における開示について、ステークホルダーに理解してもらえるよう金融庁から公表される好事例集や協会アンケートを参考に検討しており、監査役等（以下、監査役・監査等委員・監査委員を総称する場合は「監査役等」という）のバックグラウンドや選任理由、常勤や社外の役割、重点監査項目のポイント、各監査役等の活動状況など、具体的な記載に努めていることが紹介された。また、どこまで具体的に記載すべきか、情報の量と質のバランスが

課題であるとの認識が示された。

当協会出席者からは、監査役等の活動状況が企業によってかなり異なることも踏まえ、内部監査部門との連携状況、監査役等スタッフの人数や活動内容など、監査役等として基本的な事項も、投資家にとっては有用な情報であるとの見解が示された。そのほか、重点監査項目の選定理由、KAMに関する議論や監査役等の考え方、機関設計の選択理由なども知りたいとの意見が出された。また、記載にあたっては、問題事項を検討した背景や下した判断、今後の見通しや取り組みなど、ストーリー性があると分かりやすいとの意見もあった。さらに、日経225採用企業の有価証券

（注1） 過去2回の開催（2023年5月25日および2025年2月26日）の概要については、証券アナリストジャーナル2023年8月号および2025年5月号の「協会からのご案内」参照。

（本稿は、「月刊監査役」2026年5月号に掲載された記事を、「証券アナリストジャーナル」向けに再構成したものである。）